

- 1 単元名 ことばでつなげよう～わたしと、あなたと、おはなしと、～  
題材：「いろいろなふね」(東京書籍一年下)

## 2 単元について

### (1) 単元の価値と魅力

生きて働くことばを身につけるためには、日々の国語の学習などを通して適切に読み書きするスキルを学ぶことは欠かせない。しかし、既にことばを使う場面の中にいる子どもたちにとって、スキルが身につくのを待っているわけにはいかない。使いながら学び、学びながら使っていくのが国語の学習の特性でもある。同じように、教科書に載っているいないにかかわらず、子どもたちは読んだお話から新しいことばや表現を学び、同時にその内容を知ったり楽しんだりしている。そこで、ことばを使いながら、ことばをつかう良さを実感したりことばの力が付いた達成感を味わったりして学習することを重点に置いて本単元を設定した。

年間に配置されている各題材を中心にして、その題材の内容と自分自身の体験や生活、思いとを結びつけて話したり書いたりできる場面を抜き出し、さらに必要な活動を付け加えたりすることで年間を貫く大単元を構成する。そして、「ことばでつなげよう～わたしと、あなたと、おはなしと～」というテーマでくくった。そのような柱を立てることで、子どもの力ののびを長いスパンで見ることができたり、必要に応じて活動を組み替えたりすることができると考えている。

### (2) めざす子どもの姿について

小学校に入学して以来、学習という活動になじんできた1年生ではあるが、まだ遊びや生活と学習とが深く関わり合ったり重なり合ったりしている部分が大変多い。指導者の仕組んだ活動の中で、楽しく遊んだり友だちと競い合ったりしているうちにいろいろな技能や感性などを身につけていく時期である。そのことは、たとえば国語における説明的文章の読解についても次のように考えられる。対象となる動物や昆虫、乗り物などについて、その体の特徴や生態、構造などに視点を置いて書かれた説明文を題材として学習するとき、子どもたちは説明してある内容の一つ一つに驚きや興味をもって読むだろう。そして、自分が体験した記憶と重ね合わせて考え、たりない部分は他の場面で見聞きしたこととつなげて関心を深め、想像を膨らませるだろう。しかし、国語の学習では、その興味や感動を大事にしつつも、教材の文章を通して表現の文法的なきまりや豊かな言語表現の方法などを学ぶことが本来の目的だ。たとえば、A、B、Cの動物についていろいろな違いを読みとる学習の中で、それらの表記が同じような文型で比較して書かれていることに気づき、表現の手段を身に付ける。そして、その方法を利用して他の動物についても共通の視点で調べたり書いてまとめたりする力として活用する。本単元は、それをさらにもう一度自分の生活や感情と密接に関わらせて、自分自身の興味や関心を表現させたい。学習した思考の方法をもっと自分自身に密接に関わらせて、学びを深めていきたいと考えている。そして、知識面だけでなく自分のもつ感情も重ね合わせてより深く読みとり、主体的に表現する子どもの姿を期待している。

本学級の児童は、6月教材「どうやってみをまもるかな」を学習した際に、それぞれの動物の身の守り方と体の特徴について正しく読みとり、それをもとに自分ならどのように身を守りたいかを「〇〇さくせん」と名付けて考える活動を展開した。動物の不思議な体の特徴とさまざまなパターンの身の守り方に深く興味をもった子どもたちは、自分なりの身の守り方を指導者の予想以上に様々に考え、楽しそうに友だちに自分の考えを伝えていた。その会話の様子は、説明文の基本文型を学習したワークシートのように、「これは、〇〇です。〇〇には、〇〇があります。」といった話形を使ってはいないが、会話の中に自分なりの「身の守り方」とそのための「体の特徴」という基本に

なる項目を入れながら話す姿が見られた。本単元では、そのような指導者側から必要事項を与えなくても子どもの意識の中に必要な言語事項が入っていて自然に使うことができる姿、学習したことを生活の中に生かしてことばを使って交流することを楽しむことができる姿をめざしている。

### (3) 本時に向けての教材研究

本題材「いろいろなふね」は、1年生2つ目の説明文教材である。4種類の船の写真を提示して理解を助けながら、関心をもって文章を読むことの楽しさを味わえるように工夫されている。本題材の文章は、それぞれの船について3つの文で構成されている。「〇〇のためのふねです。」(役目)、「〇〇があります。(をつんでいます。)」(構造や装備=つくり)、「〇〇します。」(できること)の構成で繰り返されており、説明文の基本的な形を学ぶことができる。そして、本文の学習後、学校図書館にある他の資料などを使って他の乗り物について調べ、同様の文を作ってカードに書く活動を設定している。

27年度から教科書の内容が少し変更された。本題材においては、教材文に変更はないが、学習の「てびき」で本文を読みとる際、今まではそれぞれの船の①どんなことをするか②くふう、に分けて読みとって表にまとめるようになっていたが、現行の教科書では①やくめ②つくり③できることの3つに分けて読みとるようになっていた。この3つは本文の3つの文と呼応しており、今までよりもシンプルに読みとるための手助けとなる。また、この学習の段階でカードに書くようになっていたため、次の調べて書く活動につなげやすくなるよう工夫されている。

さらに、本時に当たっては、「あったらいいな」と思うオリジナルの乗り物を想定し、それまでの学習の仕方を活用して①やくめ②つくり③できることの3つを考える。そして、友だち同士で考えを持ち寄ってその乗り物にぴったりの名前をつけるために互いに話をする活動を設定した。通常なら自分が調べた乗り物について発表する活動のみを組むが、自分の思いや体験と結びつきを深くするため、「あったらいいな」と思う乗り物を考える活動を取り入れ、さらにその思いについて友だちと話をさせるために「〇〇カー」「〇〇船」「〇〇号」といった名前を考える活動を付け加えた。この活動で、その乗り物がもつつくりの特徴ややくめを表すような名前をつけるため、考えた本人は自分の思いをわかりやすく相手に話さざるを得ないし、友だちは相手の思いを推察したり自分の意見を織り交ぜたりして話すことを要求される活動になると思われる。敢えて説明文の文型をきちんと活用した文章を書かせず、簡単な図を示す程度で、自分なりに言葉を尽くして表現させることをねらい、少人数で話をし合うことを楽しめる時間にしたいと思う。

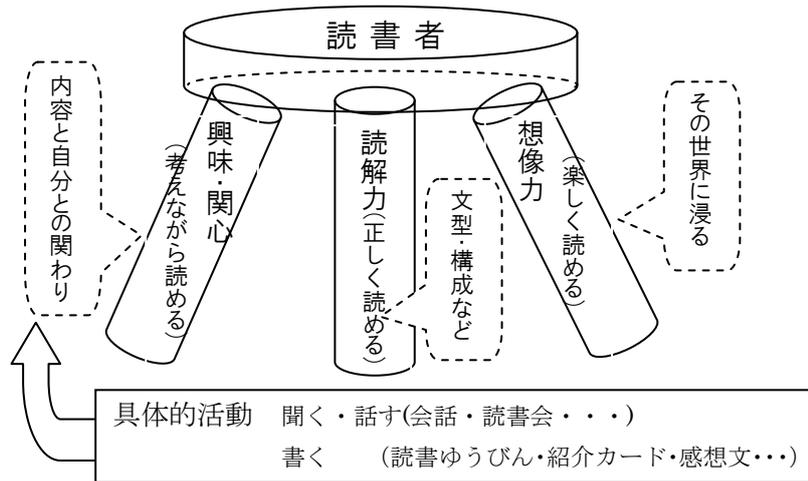
### (4) 単元の目標

○物語文や説明文などを読んでわかったことや思ったことを、自分の体験などと重ね合わせながら話したり書いたりして、友だちと交流する。

### (5) 思考のつながり構想図

○児童を、生涯を通じて意欲的に読書をし、主体的に楽しんだり、豊かに考えを深めたりすることができる良き読書者に育てるためには、正しく読みとることのできる読解力が必要だ。また、その本の世界にどっぷりと浸って楽しく読める想像力も必要だ。そして、これが本単元で特に身に付けさせたい力なのだが、内容に深い興味と関心を持ち、内容と自分とを関わらせて考えながら読む力も重要になる。これらの3つの力がどれもバランス良く身につく、生かされることによって、読書者として安定し、深く読む力を自ら育んでいくことができると考える。それぞれの力は、一つの題材で身につくものではなく、つながり合いながら深まっていくものと考え、次のような単元の年間計画を立てた。自分と内容を関わらせて読む活動は物語文の題材でも実施するが、今年度は特に説明文の題材を重点的に扱うよう計画した。

○読書者を支える3つの柱

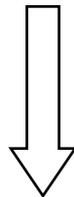


○単元の年間計画

大単元 **ことばでつなげよう～わたしと、あなたと、おはなしと～**

月 重点的に扱う題材 (説明文) とその目標  
**大単元「ことばでつなげよう」に関わる学習活動**

6月 「どうやってみをまもるのかな」  
◎事柄の順序に気をつけて、文章の内容を正しく読みとる。  
**わたしは、○○さくせんで みをまもるよ**  
\*動物たちのような自分の身の守り方を考えて発表しよう。



10月 「いろいろなふね」  
◎書かれている内容を事柄ごとに正しく読みとり、他の本で調べたことをまとめる。  
**あるといいね、こんなことができるのりもの**  
\*どんなつくりでどんなことができるのりものがあるといいか、友だちと話して、名前を付けよう。



2月 「歯がぬけたらどうするの」  
◎文章を読んで似ているところや違うところを考え自分のやってみたいやり方を伝え合う。  
**はがぬけたら どうしたいの?**  
\*どの国のやり方がやりたいか、その理由も話してみよう。

月 題材 (物語文など) とその目標  
**大単元に関わる学習活動**

5月 「とんこととん」  
**ひみつのあいずをつくらう**  
\*友だちにだけ意味のわかるひみつの合図をつくらう。

7月 「おおきなかぶ」  
**おおきなかぶで なにつくる?**  
\*登場人物になって、かぶの食べ方を話し合おう。

9月 「かいがら」  
**ここらからの プレゼント** \*大好きな人に何をしてほしいか、何をしてあげたいか、話してみよう。

10月 「サラダでげんき」  
**オリジナルサラダで、○○○になっちやおう!** \*食べたらどうなるサラダが作りたいか、材料やできるようになることも考えよう。

12月 「おとうとねずみチロ」  
**ほんのなかの おともだちを しょうかいします** \*自分の好きなお話の中の好きな人物を紹介しよう。

(6) 学習計画と評価 (全13時間)

時	学習内容	評価
1 2	全文を音読し、4種類の船について書かれた文章のまとまりをとらえる。新出漢字の学習	・4種類の船について書かれている文章がわかり、関心をもつことができる。 <b>関意態</b>
3 4 5 6 7 8	客船・フェリーボートの「やくめ・つくり・できること」を読みとり、自分はその船で何をしたいかを友だちと話す。 漁船・消防艇の「やくめ・つくり・できること」を読みとり、その船に他にどんなものがあるといいかを友だちと話す。	・船のやくめとそのためにつくりについて読み取ることができ、その船のできることがわかる。 <b>読②書</b> ・「やくめ・つくり・できること」の3つの観点を意識しながら、乗り物を想像し、意見を交流することができる。 <b>読①話聞①書</b>
9 10	他の乗り物についての本を読んで、それぞれの「やくめ・つくり・できること」を考え、カードに書く。	・関心をもって図鑑や絵本などで乗り物について調べようとする。 <b>関意態</b> ・図鑑などの解説から「やくめ・つくり・できること」を読み取り、簡単な文にすることができる。 <b>読①話聞①書</b>
11 12 13	学習したことを生かして、考えを交流する。 ・「あったらいいな」と思う乗り物を想像し、その「やくめ・つくり・できること」を考える。 ・考えた乗り物について友だちと話をし、みんなで乗り物に名前をつけ合う。【本時】 ・調べたり考えたりした乗り物のカードを発表し合う。	・「やくめ・つくり・できること」の3つの観点を意識しながら、乗り物を想像し、意見を交流することができる。 <b>読①話聞①書</b>

「いろいろなふね」の評価規準

○国語への関心・意欲・態度

- ・乗り物に興味をもって説明文を読んだり、他の図書資料で調べたりしようとしている。

○話す・聞く能力

- ①読みとったことを、ちがう乗り物と比べたり写真を使ったりして説明している。
- ②それぞれの乗り物について、観点を意識しながら自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりしている。《大単元の重点項目》

○書く能力 ・調べた事柄を観点ごとに整理して、簡単な文章で書いている。

○読む能力 ①書かれている内容を事柄ごとに正しく読みとっている。(本題材の重点項目)

- ②乗り物のやくめ・つくり・できることを表す大事な文や言葉を見つけながら読んでいる。

○言語についての知識・理解・技能

- ・主語と述語の関係に気をつけて読んでいる。

3 本時について

(1) 本時目標

「やくめ・つくり・できること」を観点において、自分が考えた乗り物について友達と話をしあうことができる。

(2) 準備                  ワークシート                  実物投影機

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇支援 ◎評価)

学 習 活 動	教 師 の 意 図 ・ 支 援
<p><b>1 今までの学習で学んだ「やくめ」「つくり」「できること」の3つのポイントを確認する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書本文の4種類の船、図書資料で調べた乗り物の、「やくめ」「つくり」「できること」を、発表する。</li> </ul> <p><b>2 前時に自分が考えた「あったらいいと思う乗り物」について、友達と話をしあう。</b></p>	<p>○数名の児童に発表させることで、今まで学習した説明文の基本文型や、構成を確認させる。</p> <p>○「つくり」の工夫があるから、「できること」があり、「やくめ」を果たすことができるという、密接な関係を再確認させる。</p> <p>◇児童が使用したい写真や絵があれば、スクリーンに投影し、聞いている児童の理解の助けとする。</p>
<p>自分の考えた乗り物の、「つくり」と「できること」について、友達と話をしよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>海の底を走る車があったらいいな。全部がガラスでできていて、海の中がよく見えるんだよ。 「それなら泳ぐ魚も見えるね。」 「乗っている人は息ができるのかな。」 空気がたくさん入ったタンクがあるよ。</li> <li>これは、雪道でも走れる車です。タイヤがスキー板に変わって、雪の上をすべることができます。 「スキー場で走ったら楽しそう。」 「雪の坂を上ることもできるの？」 ジェットエンジンがついていて、上れるようにしたいな。</li> </ul>	<p>○3人のグループをつくり、教科書の文型にとらわれすぎずに自由な雰囲気では話ができるようにする。</p> <p>◇全員の乗り物について話ができるように、1人につき5分程度の時間を区切って話をさせる。</p> <p>◇説明を助けるために、簡単に描いた図を示しながら話すこともできるようにする。</p> <p>◎「やくめ」「つくり」「できること」の要素を話の中に入れながら、自分が「あったらいい」と考えた乗り物について、話している。</p> <p>◎相手の話を聞き、乗り物の「つくり」や「できること」に対して想像を広げて反応している。</p>
<p><b>3 3つのポイントを手掛かりに話し合い、それぞれの乗り物に合った名前を付ける。</b></p> <p>考えた乗り物にぴったりの名前を付けるため、いっしょに話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ガラスでできているから「ガラスカー」</li> <li>透明だから「とうめい車」</li> <li>海の中が見えるから「見え見え号」</li> </ul>	<p>○自由にアイデアを出して名前について話し合う中でも、その乗り物の「やくめ」「つくり」「できること」を意識して、考えられるように促す。</p> <p>◇出された名前のアイデアは、メモに残すようにさせ、その名前を考えた理由を入れながらいくつでも考えを出せるようにする。</p> <p>◎3つのポイントのどれかに合わせて名前を考え、自分の意見を話している。</p> <p>◎友達の意見に反応して、共感し賛同したり、反対意見を出したりしている。</p>
<p><b>4 次時に、考えた乗り物と付けた名前を発表することを知り、意欲を持つ。</b></p>	<p>○教科書にある船の説明文から、各自想像を楽しめるように学習を進められたことを、望ましい活動として評価する。</p>

